

日本キャタピラー

「2016 森林・林業・環境機械展示実演会」出展レポート

～日本林業が抱える課題「安全」な林業作業へ、テクノロジーを使ったソリューションをご提案～

Catブランドの建設機械・ディーゼルエンジン等の販売・サービスを手掛ける日本キャタピラー(本社:東京都中野区本町1-32-2ハーモニータワー21階、社長兼CEO:矢口教)は、2016年10月9日(日)、10日(月)にアネックス京都三和(京都府)で開催された「2016森林・林業・環境機械展示実演会(林業展)」に出展しました。当展示会には、2日間で約17,200名(主催者発表)が来場され、日本キャタピラーブースも約2,000名のお客様で大いににぎわいました。その模様をレポートします。



賑わう日本キャタピラーブース

■「安全」を主なテーマの一つに、さまざまな安全対策を提案

日本キャタピラーブースは今回、災害発生率が最も多い林業における「安全」をテーマに、Catの高性能林業機械「ハーベスタ・プロセッサ仕様機」等の実機10台以上を展示した他、安全につながるさまざまなソリューションをパネルや実演で紹介しました。

また、人が近づくと警告を発する「ブラクステール」、後付け可能で全方位が見渡せる「360度アラウンドビュー」といった、機械周りで作業する方への安全対策や、災害現場で活躍するロボット操縦やセーフティクライマー工法等の危険な現場における無人化施工を提案し、お客様の関心を集めました。



セーフティクライマー工法

■ブースツアーによる説明と実演で、展示製品やソリューションを紹介

1日4回、ブース内に展示した製品を巡りながら、説明と実演を見せるツアーを実施。ブース横の法面を使った実演では、間伐材のチップを活用するフィルターソックス工法や伐採後の法面崩壊を防ぐバークブローア工法といった端材(ウッドチップ)リサイクルのソリューションを紹介しました。また、今建設業で注目の情報化施工対応機Cat320Eによる法面作業により、情報化施工の林業への活用を提案しました。

その他、林地作業道の整備に役立つコンパクトトラックローダ259Dや、作業範囲拡大が可能になる314E L CR テレスコピックハーベスタ仕様機などが、お客様の注目を集めました。

2日間の展示会を通し、お客様に日本キャタピラーの持つ多彩な製品と林業ソリューションを大いにアピールすることができました。



情報化施工対応機による法面作業の実演



注目を集めたテレスコピックアーム仕様機

■「林業展」概要

【会期】

2016年10月9日(日) 9:00-16:30、 2016年10月10日(月) 9:00-15:00

【会場】

「アネックス京都三和」 京都府福知山市 長田野工業団地

【来場者数】

2日間計 約17,200名

【日本キャタピラーブース】

出展内容: 安全、テクノロジー、端材リサイクル、実演 他

来場者数: 約2,000名

出展機種: 314ELCR 新型 スイングヤーダ仕様 / 314ELCR テレスコピックハーベスタプロセッサ仕様 / 311FLRR ハーベスタプロセッサ仕様 / 308E2CR ハーベスタプロセッサ仕様 / 305ECR セーフティクライマー工法仕様 / 320E RR 3Dガイダンス情報化施工仕様 / 320E 2Dガイダンス情報化施工仕様 / 303ECR ロボット搭載 / 259Dナンバー取得仕様 / バークブローア-BB1216

■日本キャタピラーとは

日本キャタピラーは、キャタピラー・ジャパンの100%子会社であるCatディーラー3社（キャタピラー東北合同会社、キャタピラー・イーストジャパン合同会社、キャタピラーウエストジャパン合同会社）並びに同じく100%子会社3社（キャタピラー・ソリューション・エンジニアリング株式会社、キャタピラー教習所株式会社、東京レンタル株式会社）を総称するグループ名称であり、グループ各社は、本グループネームを用いて事業を行っています。

※日本キャタピラーは法人格は有していません

名 称：日本キャタピラー

代 表 者：矢口 教, 社長・CEO

-キャタピラー東北合同会社(社長・CEO)

-キャタピラーイーストジャパン合同会社(社長・CEO)

-キャタピラーウエストジャパン合同会社(社長・CEO)

本社所在地：東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー21階

設 立： 1966年3月（2013年 日本キャタピラー発足）

従業員数：約2,600名

事業内容：建設機械及びディーゼルエンジン等の販売、サービス、レンタル